

「トランプのおじじ」もようやく 「中国のウソ」に気づいたか?!

トランプ大統領が中国の銀行に制裁を科すことにした。

北朝鮮に圧力を加えることを条件に手心を加えていたアメリカ財務省は**中国の銀行が北朝鮮との不正な金融取引にかかわった**、とアメリカの金融システムから締め出す運びとなった。

大統領選挙中、トランプは「親ロシア・反中国」の姿勢を取っていた。トランプは大統領になってもしばらくは「親ロシア・反中国」だった。

2016年12月、トランプ氏は大統領選に勝利し、台湾の蔡英文総統と電話会談をし、世界中を驚かせる。

2017年1月、トランプ氏は大統領に就任。

ロシアのサイバー攻撃を利用し、「民主党」陣営に不正な工作をさせたのではないか?いわゆる『**ロシア・ゲート**』が取りざたされ、トランプ大統領は「親ロシア」姿勢をオープンにしたままにするわけにもいなくなった。

「親ロシア・反中国」のうち「**反中国**」の姿勢も弱まってきた。

一つは**お金に糸目をつけない「強力な中国の工作」**。

もう一つは《**北朝鮮の「核弾頭付きミサイル」の開発**》をやめさせる、ために中国の協力が必要と考えたからだろう。

しかし、**中国はそんなに良い奴ではない**。

トランプよ、お前もオバマ同様に甘いものう。

脳みそが腐って味噌汁にならないぞ!?砂糖漬けの脳、甘い脳。アルツハイマーか。

民主党のオバマは単なる腰抜けだったが、共和党のトランプも似たりよったりで腰抜けなのかもしれない。

単純オジジの「トランプは習近平と、たった一度会談しただけで私は習近平のことがすごく好きだ」と言い出した。

ウォールストリートジャーナルには「われわれの相性はとてもいい。互いに好意を持っている。私は彼のことがとても好きだ。彼の妻も素晴らしい」とべたべた。

トランプは両刀使いだったのか、と錯覚してしまう。スケベなトランプおじじは一瞬夫婦交換スワップを考えたのかもしれない。

習近平が「北朝鮮問題の解決に全面的に協力する」と約束した。しかも「3か月で結果を出す」という。



こんな「リップサービス」で**トランプ**は**習近平**に首ったけ、なのだ。

しかし、**トランプ**も甘いオジジだなあ。
中国人は人を騙す民族だぜ。

メキシコ人がソンブレロを被ったレイプ魔なら、**韓国人**は口を開けばウソを吐く嘘つき民族。

世界中に出稼ぎ売春婦を輸出し、記念碑「従軍慰安婦像」を建てまくる。

ベトナム戦争時の強姦、虐殺、村ごとの焼きはらいで証拠隠滅を図る、挙句にベトナム人女性に種付けのし放題で「ベトナム全土に残されたダイライハン」の始末をどうつけるのか？ベトナム戦争お手伝いの後始末は「都合の悪いことは黙っていような」作戦を実行。韓国の国民にも何も知らさない「隠ぺい体質」。

アメリカは自分の手で創り上げた「南朝鮮（韓国）に責任を持て！」といたい。

朝鮮民族は「理性」や「法律」よりも「情緒」が優先し、韓国大統領の弾劾には蠟燭を持って座り込む人々。

そのおどろおどろしい絵はほとんどホラー映画だ。

韓国人も北朝鮮人も元をただせば朝鮮

半島人。基本的には「とんでも民族」であることには南も北も変わりはない。

ムーディーズの格付けで AクラスとなったAIIB

甘い**トランプ**の好意を逆なでする**習近平**。

中国発世界へ。

プロパガンダ「**トランプ**より**習近平**のほうが偉いだろう」(!?)と点数稼ぎに余念がない。

曰く「グローバリズムを絶対支持」

曰く「核兵器のない世界を目指す」

曰く「パリ協定を推進する」

全て**民主党のオバマ元大統領**のやりそうなことが並んでいる。

ちなみにこれらはすべて**トランプ大統領**とは真逆だ。

こんな真逆の主張をする**習近平**に「われわれの相性はとてもいい。互いに好意を持っている。私は彼のことがとても好きだ。彼の妻も素晴らしい」という**トランプおじじ**はアメリカ国民から見れば馬鹿としか映らない。



3か月という猶予期間があったとしても、中国が約束など守るはずがない。

前にも書いたが中国にとって朝鮮半島は旧ソビエト時代の衛星国、緩衝国なのだ。中国は自由主義、民主主義国家と国境を接したくない。民主主義国家と直接に国境を接すると、共産主義国家中国が民主化する恐れがある。だから、中国は北朝鮮を支援することがあっても、アメリカのために北朝鮮に圧力をかけたり、軍事力を使って脅したり、たたいたりすることはない。北朝鮮は中国のためにアメリカの侵略を防いでくれる防波堤なのだから。

約束の3か月は過ぎた。北朝鮮はその間にICBMを完成してしまった。

ICBMは西海岸のシアトルまでは充分射程にはいる。今後も改良を加えて性能は向上してゆくだらう。

「中国へのあてつけトランプおじじ」は「やはり汚い奴だなあ」と習近平を追及したいが、そうはいかず「パリ協定を離脱してみせます」。

アメリカ国務省は「中国の人身売買」を最低ランクに格下げ

次に、いままでもち出さなかった中国の「人権問題」批判を始めました。

世界各国の人身売買の実態に関する年次報告書を発表し、中国を4段階中の最低レベルに格下げ。

中国は「人身売買の廃絶に向けた最低基準を満たさず、目に見える努力をしてはいない」というのが最低レベルとなったのが理由です。



さらに台湾への 武器売却を決定

トランプ政権は台湾に14億ドル(1570億円)相当の武器を売却すると議会に通知。

中国からは強い反発が予想されるがアメリカ国家安全保障会議(NSC)が武器売却を確認している。

アメリカ財務省は中国の銀行が北朝鮮との不正な金融取引にかかわったので、アメリカの金融システムから締め出す制裁措置を発表した。

核兵器や弾道ミサイル開発を続ける北朝鮮に圧力を強めるのが狙い。

制裁の対象は中国の丹東銀行で、アメリカ政府によると北朝鮮の不正な金融取引の仲介役を果たした。また、中国の個人2人と企業1社にも新たな制裁を発表した、という。

トランプは「ロシアと和解して中国に勝つ」という戦略を思いめぐらせている、という。

「トランプおじじ」は「北朝鮮問題」があるので中国との仲を険悪にできない。ともあれ、「トランプおじじ」は中国の習近平のウソに気づいてしまったのです。

当然、中国に影響力を示さなければならぬ。

しかし、ムーディーズは何を根拠に

AAIBにAクラスの格付けをしたのか？

もともと信頼できない格付け機関ではありますが、どうせ中国からワイロでも貰ったのでしょう。損害を受けるのはプロの投資家、投資機関ですから実害はないでしょう。

トランプおじじのアメリカの報復は

◆「中国の人身売買」を最低ランクに格下げ

◆台湾への武器売却

◆アメリカの金融システムから中国の銀行を締め出す制裁
などと可愛いものです。

アメリカといえば「イスラエル・ロビー」が有名です。

しかし、「チャイナ・ロビー」は今やアメリカ国内最強の力を持っています。この場合「力」とは「資金力」のことです。

実質で世界第2位の経済大国の日本が「指標一つ正確な数字を持たない中国」、「粉飾体質の共産党一党独裁の中国」なんかに負ける訳にはいかないのです。(安倍晋三首相の秋葉原の応援演説をイメージして)

中国は「日本には尖閣諸島ばかりか、沖縄の領有権もない」と主張。日本の領海・領空侵犯を繰り返している。